

研究・調査報告書

報告書番号	担当
272	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and all-cause mortality among elderly in Finland. フィンランド高齢者におけるアルコール消費と総死亡	
執筆者	
Halme JT, Seppa K, Alho H, Poikolainen K, Pirkola S, Aalto M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Depend. 2010 Jan 15;106(2-3):212-8. Epub 2009 Sep 25.	
キーワード	
高齢者、大量飲酒、アルコール消費、死亡	
要 旨	
目的： 性ごとのアルコール消費の有病率を推測し、高齢者男性における大量飲酒と総死亡との関連を検討する。	
方法： フィンランドを代表する抽出集団で 65 歳より高齢の者からなるコホートを 6 年間追跡した。対象者は 1569 名 (当初の抽出集団の 72.7%、女性 65.3%、加重 n=1357)。アルコール消費は、飲料別の過去 12 ヶ月の摂取量および頻度を後ろ向きに測定した。公式の死亡原因登録データベースより死亡情報を得た。Cox 比例ハザードを用い死亡の相対危険度 (RR) を算出した。	
結果： 大量飲酒者 (一週間あたり 8 ドリンクより多い[訳者注：1 ドリンク=300~360mL、アルコール換算 12~13g]) の割合は男性で 20.3%、女性で 1.2%であった。1 割以上 (11.4%) の男性が一週間あたり 15 ドリンク以上の飲酒を報告していた。アルコール消費と死亡 RR との間には J 字関係があることが示唆された。しかしながら、アルコール消費として連続量を用いた解析では有意な曲形関係は認めなかった。非飲酒者と比較した場合の、中等量飲酒者 (一週間あたり 1~7 ドリンク) における多変量調整死亡危険度は 0.41 (95%信頼区間：0.23-0.72)であった。非飲酒男性に比べ、15 ドリンク/週以上の飲酒男性は 2 倍以上(RR = 2.11, 95%信頼区間： 1.19-3.75)の多変量調整死亡危険度であった。女性におけるアルコール消費量は低すぎて分析不能であった。	
結論： フィンランドの男性においては大量飲酒がよく認められたが、女性ではまれであった。本研究にて分かったことは、平均して一日あたり 2 ドリンクより多く飲酒する男性では総死亡の危険が増す、ということである。	